

# 災害に備えよう

総務企画部会

日本は世界の中で災害が多い国  
と言われています。

今年は全国各地で「自然災害」  
や「異常な猛暑(最高気温41℃)」  
に見舞われ、普段の生活環境に大  
きな悪影響が生じました。

平成23(2011)年3月11日  
に発生したM9.0の巨大地震による  
東北地方太平洋沖地震(東日本大  
震災)と福島原発事故、同年の台  
風12号による紀伊半島等の土石流  
被害、同26年の関東甲信越地方の  
豪雪、長野県の御嶽山噴火により  
多数の登山客が犠牲となり、同28  
年4月14日からの熊本地震、北海  
道では数度の台風襲来により農作  
物に甚大な被害を受け、同30年6  
月18日には大阪北部地震、その後  
の台風21号で関西空港の滑走路が  
水没、9月6日には北海道胆振東  
部地震による大規模土砂崩れ被災  
は今も記憶に残っています。

現在も全国各地で多くの被災者が不  
自由な生活を送っていることは人  
ごとではありません。

こうした中、9月30日に桜台小  
学校で市消防本部の指導で花北地  
区の住民を対象にした防災訓練が  
行われましたが、台風25号の本土  
上陸もあり緊張感の中での救急介  
護、段ボールベットの組み立て法、

救命ボート乗船などの体験学習を  
行い防災に備えました。

科学者で随筆家の寺田寅彦は  
「災害は忘れた頃にやってくる」と  
述べていますが日ごろから緊急  
時に備えた①飲料水の常時確保、  
②非常用の食料品準備、③着替え  
用の衣類準備、④懐中電灯と電池  
の点検、⑤携帯電話やラジオの充  
電と電源確保、⑥自分を証明でき  
る免許証・保険証カード類、⑦寒  
い時期の石油ストーブ確保、⑧常  
用の医薬品など非常持ち出し品の  
点検を行い、日常生活のなかで意  
識して行動するように心掛け準備  
しましょう。



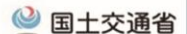
段ボールベットの組み立て体験学習

## ブロック塀の点検を

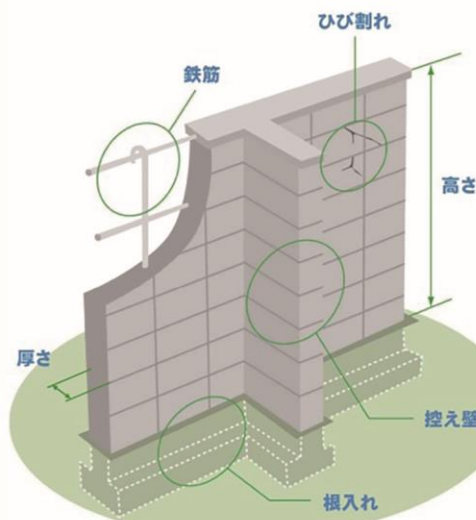
大阪北部地震で  
ブロック塀が倒壊  
し、通学途上の小  
学生の死亡事故を  
きっかけに、全国  
のブロック塀の点  
検で安全確保のため  
塀の取り壊しや補  
強対策が進められ  
ています。

花北地区内にも  
危険なブロック塀  
が存在するとみら  
れることから、国  
土交通省が示して  
いる設置基準を参  
考に、今一度、自  
分たちの周囲を見  
回して安全確保に  
努めましょう。

### ブロック塀等の点検のチェックポイント



ブロック塀について、以下の項目を点検し、ひとつでも不適合があれば危険なので改善しましょう。  
まず外観で1~5をチェックし、ひとつでも不適合がある場合や分からないことがあれば、専門家に相談しましょう。



- 1. 塀は高すぎないか  
・塀の高さは地盤から2.2m以下か。
- 2. 塀の厚さは十分か  
・塀の厚さは10cm以上か。(塀の高さが2m超2.2m以下の場合は15cm以上)
- 3. 控え壁はあるか。(塀の高さが1.2m超の場合)  
・塀の長さ3.4m以下ごとに、塀の高さの1/5以上突出した控え壁があるか。
- 4. 基礎があるか  
・コンクリートの基礎があるか。
- 5. 塀は健全か  
・塀に傾き、ひび割れはないか。
- 6. 塀に鉄筋が入っているか  
・塀の中に直径9mm以上の鉄筋が、縦横とも80cm間隔以下で配筋されており、縦筋は壁頂部および基礎の横筋に、横筋は縦筋にそれぞれかぎ掛けされているか。  
・基礎の根入れ深さは30cm以上か。(塀の高さが1.2m超の場合)

縦横造(れんが造、石造、鉄筋のないブロック造)の塀の場合

- 1. 塀の高さは地盤から1.2m以下か。
- 2. 塀の厚さは十分か。
- 3. 塀の長さ4m以下ごとに、塀の厚さの1.5倍以上突出した控え壁があるか。
- 4. 基礎があるか。
- 5. 塀に傾き、ひび割れはないか。
- 6. 基礎の根入れ深さは20cm以上か。

出典：パンフレット「地震から家が守ろう」日本建築防災協会 2013.1より一部改

## 編集後記

昔から怖いもの「地震、雷、火事、親父(大山嵐・台風)」と言われますが、今年の夏はこれに猛暑が加わり救急車で搬送される人が多くみられました。間もなく厳冬の季節ですが健康で春を迎えるよう体調管理しましょう。

今回のこぶし23号原稿執筆者及び、関係者の皆様方にご協力いただき感謝します。

編集長 戸来 昭男